

# なぞなぞに使用される反義語の考察

清海節子

## 1. はじめに

本論は、広く世界に分布する「なぞなぞ」に使用される反義語について検討する。特に、次の二つの疑問に対する答えを探し出すことを目標とする。第一は、なぞなぞに用いられる反義語が、主に「矛盾」を表すために用いられているかどうかという疑問である。第二は、なぞなぞで反義語が表現される一定の型があるかどうかである。これらの疑問に焦点を当て、さまざまな国のなぞなぞを参考にして、なぞなぞに於ける反義語の役割や特徴を考察する。

反義語は、「対義語」、「反対語」等と呼ばれ、また英語では、‘antonyms’、‘opposites’等と呼ばれ、学者によって定義が異なる。本論では、対比された語を総称して、「反義語」と呼ぶことにする。反義語とは、無関係の意味で成り立つのではなく、共有する意味要素が多く含まれているという性質がなければならない。Cruse (1986)によると、反義語は逆説的な特徴を呈している。即ち、反義語ペアは正反対の意味を表すのであるが、同時に似通った特徴がなければならないのである。例えば [高い-低い] は、空間を表現する点で共通の要素が見い出されるが、高さという一つの次元で両極端の意味を表すので、対立する意味が際立つのである。それに比べ、[高い-軽い] は、共通の要素がないので反義語にはなり得ない。Cruse は、反義語の分布がほとんど同じであったり、言い間違えに反義語が選ばれたりするのは、反義語が意味の一つの次元では両極端にあるが、他の次元では同じであると説明できるとし、次のように述べている：‘…opposites typically differ along only one dimension of meaning: in respect of all other features they are identical hence their semantic closeness; along the dimension of differences, they occupy opposing poles, hence the feeling of difference.’ (Cruse, 1986: 197)

以下、反義語の研究に関しての先行研究が2節で紹介され、3節では、なぞなぞに於ける反義語の役割について検討する。4節では、世界のなぞなぞを扱い、反義語のセットの数が、1, 2, または3以上である場合に分けて、それぞれ検討する。

最後の5節では、結論が述べられる。

## 2. 反義語の先行研究

反義語の研究は、学者によって用語も分類も異なっている。以下 2.1-2.3 では、分類数の少ない順に先行研究を概観し、2.4 では、コーパスデータに基づく研究を紹介する。

### 2.1 2分類 (玉村 (1992), 森田 (1996))

玉村 (1992: 116-7) は、反義語と対語<sup>たいご</sup>を区別し、語義の対照点が明確であれば、反義語、そうでなければ対語と分類している。[男-女], [行く-来る], [広い-狭い] は反義語とみなされ, [日-月], [親-兄弟] [草-木] [山-谷] は対語である。玉村は、対語は普遍的でないものが多くあると述べ、歴史的、臨時的な例としては、[ウサギ-カメ] [源氏-平家] [スパルター-アテネ] 等を挙げている。

同様に、森田 (1996: 199-229) も、「反義語」と「対義語」に分け、「反義語」は、意味特徴の面である1点が対照的な正反対の関係にある場合 (例: [白-黒] [善し-悪し] [海-山] [山-谷]) で、「対義語」は、指示対照が明らかに異なるが意味特徴の点では正反対とは認められない場合 (例: [山-川], [兄-弟], [姉-妹] (年齢の違い) [兄-姉] [弟-妹] (性の違い) ) と考えている。

### 2.2 3分類 (Lyons (1968, 1977), Leech (1981), 森岡 (2008))

Lyons (1968, 1977) は、反義語を次のように3つに分類している<sup>1)</sup>。

- (1) (i) ‘complementarity’ (相補的關係)
- (ii) ‘antonymy’ (段階的尺度)
- (iii) ‘converseness’ (換位性)

相補的關係は、2語の間に中間的段階がない ‘male-female’, ‘present-absent’ 等のような「A か B」の関係である。段階的尺度は、連続した尺度に基づくもので、‘large-small’, ‘long-short’, ‘old-young’ 等の例があげられ、「A でも B でもない可能性があるもの」である。換位性は、ある種の方向性に基づくものと考え、「come-go’, ‘buy-sell’, ‘husband-wife’ 等が含まれる。同じような主要な反義語

の3分類は, Leech (1981)によっても提案されている(‘taxonomic opposition’ (分類対立関係), ‘polar opposition’ (極性対立関係), ‘relative opposition’ (相対対立関係))。また, Cruse (1986) は, Lyons の ‘antonymy’ に相当する ‘gradable antonymy’ (段階的反義性)をさらに ‘polar antonyms’ (極性反義語), ‘overlapping antonyms’ (部分重複反義語), ‘equipollent antonyms’ (等価反義語) の三つのグループに下位範疇化している (Cruse, 1986: 206-7)。

森岡(2008)は, 具体名詞には, 対義語はないはずであると述べ, 名詞が不釣り合いなもの組み合わせで対義語と受け取られる場合は, セット語であると考え。例えば, 同義語でも対義語でもない組み合わせの「手と足」「椅子と机」「パンとバター」や, 似通ったものの組み合わせである「花とだんご」「花と月」等がセット語である。一方で, 抽象概念にかんしては, すべての言語が対義語を持つはずであると森岡は述べ, 次のように, 関係概念, 形情性概念 動作性概念の三種類の概念に便宜上分けて考えている。

- (2) (i) 関係概念 (a) 時間 --- 例: [朝-夕], [きのう-あす]
  - (b) 空間 --- 例: [上-下], [左手-右手]
  - (c) 人間関係 --- 例: [おじいさん-おばあさん], [父-母]
- (ii) 形情性概念 --- 形容詞・形容動詞<sup>2)</sup>
  - 例: (和語系語基) [大き-小さ] [高-低]
  - (漢語系語基) [忙-閑] [静-動]
- (iii) 動作性概念 --- 動詞: 肯定と否定, 能動と受動, 相対的対立
  - 例: [取る-取らない] [見る-見られる] [上げる-下げる]

### 2.3 4分類以上 (国広 (2002), 村木 (2002, 2008))

国広 (2002) は, 反義語を次のように4つに下位区分している。

- (3) (i) 反対関係---何らかの意味で語義の一部が逆方向・対立的性質を持つ
  - 例: [出る-入る] [嬉しい-悲しい]
- (ii) 反義関係
  - (a) 両極的反義 (片方の否定が他方を指すもの)
    - 例: [ある-ない] [出席-欠席]
  - (b) 連続的反義 (反義語が程度差をもって繋がっている連続的反義)

- 例：[長い-短い] [遠い-近い]
- (iii) 逆義関係---両者が同時に成立する場合
- 例：[売る-買う] [あげる-もらう]
- (iv) 対立関係---「東・西・南・北」のような空間的対立関係
- 例：[東-西] [南-北]

村木 (2002) は、反義語を以下のように7つのタイプに分けている。

- (4) (i) 相補関係に基づく反義語 --- 例：[男-女] [等しい-異なる]
- (ii) 両極性に基づく反義語 --- 例：[満点-零点] [北極-難局]
- (iii) 程度性をもつ反義語 --- 例：[大きい-小さい] [安全な-危険な]
- (iv) 反照関係に基づく反義語---例：[入口-出口] [ことづける-ことづかる]
- (v) たがいに相手を前提とした反義語 --- 例：[先生-生徒] [医者-患者]
- (vi) 変化に関する反義語 --- 例：[あがる-さがる] [寝る-起きる]
- (vii) 開いた反義語

最後のタイプの「開いた反義語」は、物事の二つの側面が、繰り返し対比されることで、対義関係を感じるペアである。村木 (2008) によると、「二値性」(例：[和室-洋室])、「全体-部分」(例：[両手-片手])、「二側面」(例：[水平-垂直])、「文脈依存」(例：[落語-漫才 (落語は好きだが漫才は嫌いだ)])、「慣用句」(例：[晴れる-ふさぐ (気が晴れる-気がふさぐ)])の5種類が認められる。

#### 2.4 コーパスデータを利用した反義語研究 (Jones (2002))

Jones (2002) は、これまでの学者の直感で反義語を分類するのではなく、コーパスデータを使用し、反義語にかんする何千人もの直感を調査した。新聞をコーパスとして英語の反義語を分析し、ディスコースの機能を分類した。その結果、反義語のペアの共起は単にコントラストを強調だけでなく、8つの機能があると提案した<sup>3)</sup>。特に以下の2つの機能は共に頻度が4割以上であることから注目に値する。

- (5) (i) Ancillary Antonymy 「補助的反義性」
- (反義語に付随して別の意味の対立が生じる)
- 例： Stamps are popular but collecting is unpopular.

(イタリック体は反義語ペアを表し、下線が施されている語彙は、それに付随して意味の対立が生じたペアである。)

(ii) Coordinated Antonymy 「等位反義性」

(「総て」という総括的な意味を示す)

例: ‘The company’s policy is to recruit *skilled* and *unskilled* workers’

(「技術のある者からない者まですべてを含む」を表現する。)

### 3. なぞなぞに使用されるの反義語

#### 3.1 「なぞなぞ」が成立する要因

なぞなぞは、民間伝承のジャンルに属し、一般の発話とは異なる次元に存在するものであるが、反義語が用いられていることに注目し、実際の例を検討することにする<sup>4)</sup>。なぞなぞは、池上(1992: 134-179)に従うと、「言葉遊び」の一種であり、言葉による問いかけとそれに対する答から成立する。また、なぞなぞが成立するためには、「比喩」と「矛盾」という二つの要因が重要であると述べている。要因の一つの「比喩」が含まれるなぞなぞとして、次のようなものが挙げられる(池上, 1992: 134)。

- (6) (i) 朝早く起きて赤い頭巾をかぶって庭掃除するのはダーレ。(答: にわとり)  
(ii) 口から紙食べて、お腹から出すもの、ナーニ。(答: ポスト)  
(iii) 赤い顔して木からぶら下がっているもの、ナーニ。(答: 柿)

以上は、すべて擬人法が用いられ、答が人間に喩えられている。しかし、もし(6i)が比喩なしに、「朝早く起きて、コケッココーと鳴く鳥、ナーニ」となったら、なぞなぞとは思えない。つまり、比喩であることで「なぞなぞ」らしさが高められていると考えられる。

一方、「矛盾」が取り込まれたなぞなぞとして、以下の例が挙げられる(池上, 1992: 141)。

- (7) (i) 取っても取っても、取れないもの、ナーニ。(答: 煙, 相撲)  
(ii) 切っても切っても、切れないもの、ナーニ。(答: 水, 縁)  
(iii) 見ても見ても、見えないもの、ナーニ。(答: 空気)

(iv) 要るときに要らないで、要らないときに要るもの、ナーニ。(答：刀のさや)

池上は、これら論理的な矛盾の関係から成り立つなぞなども、よく観察すると、同一のタイプとは言えないと説明する。まず、(7i)について考えると、答が二通りある。「煙」も伝統的に認められる答ではあるが、「相撲」の方がおもしろいと考えられる。その理由は、「相撲」の答の方がひねりがあるからである。答が煙の場合は、煙が物理的につかめたとおもってもつかめないという事実に基づいているからで、なぞなぞの「取ル」は同じ意味が繰り返されていると理解される。同様のことが、(7ii)「切っても切ってもきれないもの」(答：水)、と(7iii)「見ても見ても、見えないもの」(答：空気)にも当てはまる。一方、(7i)に於いて、答が「相撲」である場合には、「取る」が同じ意味で繰り返されているという前提で、矛盾が起こるが、実は、相撲を取るの「取ル<sup>(1)</sup>」(「相撲をする」の意味)と、帽子等取るの「取ル<sup>(2)</sup>」(「対象から何かを取り去られる」の意味)をかけていることから、相撲を取っても、相手がモノを取り去ることができないという意味を生むのである。それで、同じ言葉が繰り返されているから同じ意味だろうというわれわれの硬直した言語観を揺さぶるのである。(7iii)の「切っても切っても切れないもの」は、答が「水」より「縁」の方が面白く感じる。何故なら、答が「縁」の場合は、「縁を切る」という成句があり、日常では成句を全体として受けいれ、構成要素に分解することがない。従って、この成句からなぞなぞの答を探すために、「糸ヲ切る」と「縁ヲ切る」の関係性を再確認することで、われわれの通常の言語観に刺激が与えられるのである。最後の例(7iv)は、「要る」が同じ意味で4度繰り返されているが、十分に面白いなぞなぞである。「刀のさや」が答だとすると、このなぞなぞは、「刀が要るときには刀のさやはいらす、刀が要らない時には刀のさやは要る」という意味に解釈される。日本語が、動詞の主語、目的語を表現しなくても成立するという性質があることから、この種のなぞなぞが可能になっているのである。

池上(1992: 152-153)は、「比喩」と「矛盾」という二つの要因の関連性から、なぞなぞの型に関して、次のように4分類できると考えている。

(8) (i) 「比喩」なし、「矛盾」なし

例：明けても暮れても家の中にぶる下がっているもの、ナーニ。(答：電灯)

(ii) 「比喩」あり、「矛盾」なし

例：青い座敷に銀の盆、ナーニ。(答：月)

(iii) 「比喩」なし、「矛盾」あり

例：座ると高く，立つと低くなるもの，ナーニ。(答：天井)

(iv) 「比喩」あり、「矛盾」あり

例：足がないのに走るもの，ナーニ。(答：風)

池上は，(8)の(i)-(iv)の中では，「比喩」と「矛盾」がないことで「なぞなぞらしさ」が低められてしまっている(8i)が一番なぞなぞらしくないということになるだろうと述べている。

### 3.2 なぞなぞの中の反義語

「矛盾」を含むなぞなぞには，反義語がしばしば使用されていることに留意すべきであろう。以下，池上の挙げている例で反義語が含まれているなぞなぞを取り上げるが，最初に(7)で挙げた例をもう一度観察する。

(9(=7)) (i) 取っても取っても，取れないもの，ナーニ。(答：煙，相撲)

(ii) 切っても切っても，切れないもの，ナーニ。(答：水，縁)

(iii) 見ても見ても，見えないもの，ナーニ。(答：空気)

(iv) 要るときに要らないで，要らないときに要るもの，ナーニ。

(答：刀のさや)

上の(9i-iii)の反義語はそれぞれ，[取ル-取ラナイ]または[取レル-取レナイ]，[切ル-切ラナイ]または[切レル-切レナイ]，[見ル-見ナイ]または[見エル-見エナイ]ではない。実際は[取ル-取レナイ]，[切ル-切レナイ]，[見ル-見エナイ]というように，否定形だけが可能を表現するため，正確には反義語ではない。しかし類似した意味なので，ここでは反義語と考えることにする。

次のなぞなぞには，下線で示されるように1セットの反義語が含まれている。

(10) (i) 寒くなるほど，あつくなるものナーニ。(答：氷)

(ii) 口がないのに歯のあるもの，ナーニ。(答：下駄，くし)

(iii) きれいな着物着ても，汚い着物着ても同じに見えるもの，ナーニ。

(答：影)

以下のなぞなぞには、2種類の下線で示されるように、2セットの反義語、即ち、[座ル-立ツ]、[高ク-低ク]が含まれている。

- (11) 座ると高く、立つと低くなるも、ナーニ。 (答：天井)

次のなぞなぞも2セットの反義語が見つかるが、1セットは「～ない」（「入れない」「拭かない」）という否定形で表されている。

- (12) 大きいものは入れるのに、小さいものは入れないもの、ナーニ。(答：蚊帳)  
拭かないうちはきれいで、拭くときたなくなるもの、ナーニ。  
(答：ぞうきん)

また、次の2例のように、1セットの反義語が二度繰り返されているなぞなぞがあることにも注目したい。

- (13) (i) 要るときに要らないで、要らないときに要るもの、ナーニ。  
(答：刀のさや、弁当のふた)  
(ii) 取るときに取らないで、取らないときに取るもの、ナーニ。  
(答：相撲のまわし)

上の例は、それぞれ [要ル-要ラナイ]、[取ル-取ラナイ]が2回繰り返されているが、そのままの繰り返しではなく、[要ラナイ-要ル]、[取ラナイ-取ル]と逆の順になっている。そこで、1セットの反義語を [A-A'] と考えると、上の2例は、[A-A'-A'-A] 型であると考えことにする。

### 3.3 反義語の役割

3.2 で、池上の扱う例だけを見ると、反義語はもっぱら「矛盾」を表すなぞなぞに用いられているという印象を受け、「矛盾」と反義語は関連性が高いことが分かる。しかしながら、4. で扱う例から分かるように、なぞなぞで使用される反義語は必ずしも「矛盾」が含まれる内容だけに限られるのではなく、「矛盾」を表わさない場合にも用いられる。事実、反義語を含むなぞなぞに「矛盾」が見つかる可能性は極め

て高いが、反義語は矛盾だけを伝えるためだけでなく「比喻」を表現するためにも頻繁に使用されることが明らかにされるだろう。さらに、2.4 で紹介した Jones (2002) の ‘ancillary antonymy’ (補助的反義性) としての役割を果たしていることも論じられるだろう。

#### 4. 世界のなぞなぞに用いられる反義語の例

この節では、世界のなぞなぞが収集された『なぞなぞの本』(福音館書店編集部(編)(1982)<sup>5)</sup>)を参考にして、反義語が使用されているなぞなぞを取り上げ、どのように反義語が表されているのか観察する。用いられる反義語の対の数で、なぞなぞを分類し、それぞれの場合を考察していく。各例では、対になっている反義語には、下線が引かれ、同種の下線部分は反義語関係が認められることを示している。4.1では、1セットの反義語が観察される場合を扱い、4.2は、2セットの反義語が表れる場合、また、4.3は、3セット以上の反義語が使用されているなぞなぞを取り上げる。4.1-4.3の観察に基づいて、なぞなぞに使用される反義語の役割と型が4.4で提示される。以下、なぞなぞの後には、括弧に採集された地域名と答が記されている。

##### 4.1 1セットの反義語

まず、1セットの反義語だけが使用されているなぞなぞを考える。注意して観察すると、一種類とは言えず、次のように3つに分類できる：(i) 単純な対比 (ii) 繰り返される場合 (iii) 別の対比を暗示する場合。以下、これらの分類で、実例を順に検討していく。

###### 4.1.1 単純な対比

この分類は、1セットのみの反義語表現で、繰り返しがなく、他の対比も暗示されていないなぞなぞが属し、最も単純な対比の構造を示すと考えられる。最初に、時間・空間の対比が反義語として表されている例をみることにする。

###### (14) 『時間の対比』

- (i) 昼も夜も寝床に寝ている。 (フランス) (答：川)

『空間の対比』

- (ii) あっちの屏風のかげに小僧千人,  
こっちの屏風のかげに小僧千人。(日本:新潟) (答:ザクロ)
- (iii) 木の幹の下のほうにビロード,  
 木の幹の上のほうにビロード。(西アフリカ:ベチ族) (答:ヒョウの子)

上の例すべてが、「矛盾」でなく、「比喩」を表すなぞなぞであることに注目すべきである。また、上の例の反義語は、総括的な意味を表す Jones (2002) の ‘coordinated antonymy’ (等位反義性) であると考えられる。つまり、(14i) は、昼も夜も一日中、(14ii) は、総ての屏風、(14iii) は、下も上も含めた全空間を指すために、反義語が用いられていると解釈できる。さらに、これらの例の中で、空間の対比がみられる2例のなぞなぞは、反義語以外は同じ語句が繰り返されているという特徴も見逃せない。反義語部分だけが異なり、他の部分は全く同じであるので子供には覚えやすいであろう。

次に、時間・空間以外の対比の例をみることにする。以下のように、名詞、形容詞、動詞が反義関係である例が見つかる。

- (15) (i) 自分のものなのに 他人が一番使うもの。(イスラエル) (答:名前)
- (ii) 長くなると縮まるもの。(フランス) (答:人生)
- (iii) 水はなんでも運んでいくけど、たった一つ運べないものは。  
 (ブルガリア) (答:影)
- (iv) 入る時こちょこちょ 出る時こちょこちょ。  
 誰もが私をくすぐるの。(イギリス) (答:かぎ)

以上のなぞなぞでは、上から順に、[自分-他人] [長クナル-縮マル] [運ブ-運ベナイ<sup>6)</sup>] [入ル-出ル] という反義関係を表す一対の語彙が見つけれられる。最後のなぞなぞだけが「比喩」を含んでいる。

#### 4.1.2 繰り返しがあがる場合

次に、1セットの反義語だけが含まれる場合で、一方または、両方の語彙が繰り返される例をみることにする。最初の例は、1セットの反義語を [A-A'] と表すことにすると、[A-A'-A'-A] という順に、2回目が逆に繰り返されている。

- (16) 生まれたけれども生まれてない。  
生まれてないけれどもやっぱり生まれているもの。  
(フィリピン) (答：たまご)

次の例も [A-A'-A'-A] 型の異種と考えられる。語彙は異なるが、意味的には [死ヌ-生キル] という対比が繰り返されている。

- (17) 死んだままにしておけば長生きするのに  
生かしておくとすぐに死んでしまう。(フィリピン) (答：ろうそく)

次の2例は、反義語ペアの一方だけが繰り返され、それぞれ [A-A'-A']、[A-A-A'] 型であると言える。(18i) は、矛盾を含まない比喩的ななぞなぞである。

- (18) (i) 生きているときはやわらかな緑 死ぬときゃ火にあぶられて  
死んでも水につけられる 苦しいよ 苦しいよ。(中国) (答：茶)  
(ii) 寒ければ寒いほどあつくなるもの。(日本・新潟) (答：氷)

次の例は、[A-A-A'] 型であるが、正確に言うと、A' の部分が A の単なる反義語「しよわない」ではなく、「しよわれない」で受け身である。つまり、このなぞなぞの意味は、「私たちが土徳利をいくらしよっても、土徳利はしよわれない」と主語が入れ替わっていると想像できる。

- (19) しよってもしよっても しよわれない<sup>とっくり</sup>土徳利。(日本：福島) (答：井戸)

また次のなぞなぞは、[アル-ナイ] が4回繰り返されているだけでなく、4.1.3 で、もう一度扱うが、別の対比も暗示している例である。

- (20) 体はいつも冷たくて 頭があつても首がない。  
目があつてもまゆ毛がない。 鎧があつても兜がない。  
羽みたいのがあつても飛べはしない。 だけど足もないのに動き回る。  
(中国) (答：魚)

#### 4.1.3 別の対比を暗示する場合

最後に、1セットの反義語だけが含まれるが、それに関連して別の反義関係が暗示される場合をみることにする。例えば、最初のなぞなぞ (21i) は、「冬-夏」という反義語1セットがあると同時に [走ッテ降リル-眠ッテイル] は、一般的な反義語ではないが、ここでは、意味的に対比されていると解釈され得る。以下の例で反義語には下線が施され、対比が暗示されている部分には、点線の下線が施されている。

最初に、反義語（下線の部分）が、時間・空間の反義語が含まれる例をみることにする。

##### (21) 『時間の対比』

- (i) 冬になると元氣よく坂を走ッテ降リルけど  
夏のあいだは眠ッテいる。 (ルーマニア) (答：そり)
- (ii) 夜は山 昼は野原。 (イギリス) (答：ベッド)
- (iii) はじめは青蚊帳か や あおぼろ青坊さん。  
あとには赤御堂お どうあかぼろ赤坊さん。 (日本：福井) (答：ホオズキ)

##### 『空間の対比』

- (iv) 上では白、下では黄色。 (フランス) (答：たまご)

次に、[アル-ナイ] の反義語が含まれ、さらに別の対比が暗示されるなぞなぞが複数あるので、まとめて見ることにする。

- (22) (i) 手の指はあっても 足の指はありません。 (デンマーク) (答：手袋)
- (ii) 首と口があって頭がないもの。 (フィンランド) (答：びん)
- (iii) 口がなくて歯のあるもの。 (日本・福井他) (答：げた)

次のなぞなぞは、4.1.2 で、[アル-ナイ] が4回繰り返されている例として取り上げたが、同時に、点線で示すように別の対比が暗示されていると考えられる。

- (23(=20)) 体はいつも冷たくて 頭があっても首がない。  
目があってもまゆ毛がない。 鎧があっても兜がない。  
羽みたいのがあっても飛べはしない。 だけど足もないに動き回る。  
(中国) (答：魚)

上の例では、[アルーナイ]の4回繰り返しがあるが、暗示されている対比は、[頭-首] [目-まゆ毛] [鎧-兜] [羽みたい-足] [飛べはしない-動き回る]の5セットの対比が認められる。

次に時間・空間以外の反義語がみられるなぞなぞをあげる。最初の二つが名詞と形容詞であるが、残りは、動詞であることに注目したい。

- (24) (i) 兄が二里歩いてるうちに弟が十二里歩くもの。(日本：青森) (答：時計)
- (ii) 父さんくれた種をまく。種は黒い 地面は白い。  
(イギリス) (答：紙とインク)
- (iii) 水が流れて来るとぶとう酒を飲み、  
水が流れて来ないと水を飲む人。(ルーマニア) (答：水小屋の主人)
- (iv) 口から出して耳から飲みこむもの<sup>7)</sup>。(フィンランド) (答：ことば)
- (v) 頭から水飲んで口から吐くもの。(日本：三重) (答：どびん)
- (vi) 五本が押して、十本が引っ張る。(フランス)  
(答：長靴下をはく時の足と両手)
- (vii) 見ようと思わないのに見え  
見ようと努力しても見えないもの。(フィンランド) (答：夢)

#### 4.1.4 別の対比の特徴

さて、4.1.3 で、別の対比が含まれている例をみてきたが、これらは、Jones (2002) の ‘ancillary antonyms’ (補助的的反義語) とみなされるだろう。ここでは、例の点線部分に焦点を当て、どのような意味が多く対比されているか検討する。まず、次のように、色の語彙 ([青-赤] [白-黄色] [黒い-白い]) の対比が多い。

- (25) (i) はじめは青蚊帳青坊さん  
あとには赤御堂赤坊さん。(日本：福井) (答：ホオズキ)
- (ii) 上では白 下では黄色 (フランス) (答：たまご)
- (iii) 父さんくれた 種をまく。種は黒い 地面は白い。  
(イギリス) (答：紙とインク)

また以下のように、体の部分の語彙が多いことが認められる。「アルーナイ」の反義語が含まれるものすべてがそうである。

- (26) (i) 手の指はあっても 足の指はありません。(デンマーク) (答:手袋)  
 (ii) 首と口があって頭がないもの。(フィンランド) (答:びん)  
 (iii) 口がなくて歯のあるもの。(日本・福井他) (答:げた)  
 (iv) 体はいつも冷たくて 頭があっても首がない。  
目があってもまゆ毛がない。よろいがあってもかぶとがない。  
羽みたいのがあっても飛べはしない。 だけど足もないのに動き回る。  
 (中国) (答:魚)  
 (v) 頭から水飲んで口から吐くもの。(日本:三重) (答:どびん)

次に数の対比 ([1-12] [5-10]) が見られる。

- (27) (i) 兄が一里歩いてるうちに弟が十二里歩くもの。(日本:青森) (答:時計)  
 (ii) 五本が押して, 十本が引張る。  
 (フランス) (答:長靴下をはく時の足と両手)

## 4.2 2セットの反義語

この分類には、2セットの反義語がみつけられる表現から成るなぞなぞが含まれる。1セットの反義語の場合と同様に、次のようにさらに3分類できる: (i) 単純な対比 (ii) 繰り返される場合 (iii) 別の対比を暗示する場合。以下の例では、1セットの反義語には下線を施し、別の1セットの反義語には、二重下線が施されている。

### 4.2.1 単純な対比

最初に、2セットの反義語の内、1セットだけでも、時間・空間の反義語が用いられているなぞなぞから紹介することにする。(28) に挙げられる例は、すべて「矛盾」を表さずに、半分以上が比喩を表している。また、次の例から分かるように、2セットの反義語をそれぞれ [A-A'] と [B-B'] で表すことにすると、そのほとんどが [A-B-A'-B'] 型であるという特徴が認められる。次の例では、最初の2つが時間を表し、残りは空間を示す。

- (28) 『時間の対比』

- (i) 昼は寝ていて  
夜は起きて水をくみへらすもの。(日本・沖縄)(答:ランプ)
- (ii) 二人の兄弟が 昼も夜も追いかけているけれど、  
どうしても追いつけないもの。(ブルガリア)(答:太陽,月)
- (iii) 壁に流れる川。風が吹いても波たたず、  
冬には水が少なくて、夏には水が多くなる。(中国)(答:寒暖計)  
『空間の対比』
- (iv) 使わぬときには縦になって使うとき横になるもの。  
(日本:新潟)(答:てんびん棒)
- (v) 上はつるつる 下はひだひだ。(フィリピン)(答:きのこ)
- (vi) 上は大水 下は大火事。(日本・群馬ほか)(答:ふろ)
- (vii) 下でいっぱいになり上でからっぽになるもの。(フランス)(答:井戸)
- (viii) 母は上で針仕事 子は下でぶらんこ。(日本:岩手)(答:振り子時計)
- (ix) 寝るときはあっちの家 起きたらこっちの家。(ネパール)(答:かぎ)

時間と空間の両方の反義語を含むなぞなぞが次の例である。

- (29) 夕方には前にあり、朝には後ろにあるもの。(フィンランド)(答:夜)

次のなぞなぞだけは、数少ない[A-A'-B-B']型である。

- (30) 家の中にもない 家の外にもない。  
空中にもないし 地面にもない。(ルーマニア)(答:窓)

次のなぞなぞは[A-A'-B-B']の変種であると考えられる。「ない」と「生えてる」は反義語ではないが、意味的には[ナイーアル]の対立と解釈できる。また『反対語対照語辞典』によると、「生える」の反義語は「枯れる」であるが、「根が抜ける」ことも、根が無くなるという意味で、「枯れる」に類似した意味であると考えられるので、ここでは[抜ケル-生エル]を反義語として捉える。

- (31) 葉っぱがないときゃ 根っこが生えてる。  
根っこが抜けると葉が生える。(イギリス)(答:船,帆といかり)

以下は、空間・時間以外の対比の反義語を含むなぞなぞである。すべての例が [A-B-A'-B'] 型であることが認められる。また、以下に示すように矛盾だけでなく比喩も表している。

(32) 『比喩のみ』

(i) おりていくとき笑い  
のぼっていくとき泣くのは。 (フランス) (答: 井戸のバケツ)

(ii) 着ると倒れず 着ないと倒れるもの。 (日本: 熊本) (答: 着物)

(iii) のぼるときあんま(=若者)で  
おりるときじいま(=爺)。 (日本: 富山) (答: ほし大根)

『矛盾』のみ

(iv) 大きい生きものが入れるのに  
小さい生きものは入れないもの。 (日本・群馬) (答: 蚊帳)

『比喩と矛盾』

(v) 死んだ人々を呼ぶ。 すると答える。  
生きている人を呼ぶ。 すると答えない。  
 (西アフリカ: ヨルバ族) (答: 木の葉)

#### 4.2.2 繰り返しがある場合

次のなぞなぞは、反義語2セットが含まれ、さらに、その一部の語彙が繰り返されている例である。2例とも比喩を表すなぞなぞである。下の例の太い下線が繰り返されている反義語を示す。それぞれ, [A-A'-A'-A-B-B'] [A-B-A'-B'-B'] である。

(33) (i) 固いものを柔らかくし 柔らかいものを固くし  
 風とは仲がいいけれど 水をこわがる。 (チェコ) (答: 火)

(ii) おいら双子の兄弟 昼間は腹いっぱい 夜は腹ぺこ  
重い荷物しょって 休むときや腹ぺこ。 (イギリス) (答: 長靴)

#### 4.2.3 別の対比を暗示する場合

最後に、2セットの反義語から成り立ち、さらに別の反義関係が暗示される場合

をみることにする。暗示されている対比は、下線が点で施されている部分で、反義語は、下線で表されている。

- (34) とんがった顔 桃の花みたいな足のかた  
前で歌をうたい 後ろでチャンバラ  
おかしいなおかしいな 座ってるほうが立っているより背が高い。  
(中国) (答：犬)

以下の2つのなぞなぞでは、[父-母]の対比がされた後、[親]として父母が捉えられ、次に[親-子供]の対立が暗示されている。

- (35) (i) 父さんにはとげがある。 母さんは黒くて 子どもは白い。  
(フランス) (答：栗)
- (ii) お父さんはのつぼ お母さんはちび  
子どもはみんなあやつり人形。 (チェコ) (答：熊手)

次のなぞなぞは、4.2.1で紹介したが、その他の対比の[葉-根]が暗示されている。

- (36 (=31)) 葉っぱがないときゃ 根っこが生えてる。  
根っこが抜けると葉が生える。 (イギリス) (答：船、帆といかり)

### 4.3 3セット以上の反義語

この分類は、3セット以上の反義語がみつけれられる表現から成るなぞなぞを扱うが、そのような例は数少なく、この調査では3例しか見つからなかった。従って、今回のデータに限ってではあるが、これ以上分類する必要がないと判断される。3セットの反義語が使用されているなぞなぞは1例のみ、4対の反義語は、2例が見つかった。上で検討した1セットや、2セットの反義語を含む場合とは異なり、3セット以上の反義語が含まれるなぞなぞには、繰り返しがなかったが、最後に挙げる例には暗示された対比が含まれている。以下にあげる例の中で、それぞれの反義語のセットが同じ種類の下線で表されている。

次の3セットの反義語が含まれるなぞなぞは、矛盾でなく比喩を表している。反義語各セットの一語が最初に述べられ、もう一方の反義語が少し順序を変えて現れ

る [A-B-C-A'-C'-B'] 型である。

- (37) 小さいときは食べられるけどなんにも作れない。  
年とったら作れるけど食べられない。 (中国) (答：竹)

次の2例は、4セットの反義語が用いられて、矛盾と比喩の両方が表されている。最初の例は、2セットずつ反義語が交互に現れる [A-B-A'-B'-C-D-C'-D'] 型である。

- (38) 冬はほかほか 夏はひやひや  
春はびんぼう 秋はお金持ち。 (ドイツ) (答：穴倉)

次の例は、反義語のセットが分散せずに、順に現れる [A-A'-B-B'-C-C'-D-D'] 型である。また、最後の二文の「飲ミツクス-生カス」が反義語ではないが、反義語 [卑小-偉大] に付随して対比が暗示されていると考えられる。

- (39) この広い世界のあらゆるものの中で  
 一番長くていちばん短いもの  
 一番はやくて一番おそいもの  
 いくつにでも細かく分けられて  
 どんなにでも大きくひきのばせる  
 一番無視されていて一番くやまれて  
 それなしには何もできぬ  
卑小なものをすべて飲みつくし  
偉大なものをすべて生かす。 (イギリス) (答：時)

#### 4.4 なぞなぞに於ける反義語の役割と型

4.1-4.3 までなぞなぞの反義語についての観察をして、主に「矛盾」を表す役割を期待したのだが、実際には、「比喩」が含まれる多くのなぞなぞにも反義語が用いられていることが分かった。つまり、なぞなぞに於いて、反義語は「矛盾」だけでなく「比喩」表現のためにも利用されていると言えるだろう。さらに、型に関しては、1セットでの繰り返しは、[A-A'-A'-A]、[A-A'-A']、[A-A-A'] が見つかり、

また、2セットの反義語は、多くが [A-B-A'-B'] 型であった。3セット以上の反義語の例は数少ないので型に関して傾向を推測することは難しい。また、1セットの反義語には、Jones の ‘ancillary antonyms’ の例が多く見つかった。

## 5. 結論

本論は、反義語がなぞなぞの中でどのような働きをし、いかに表現されているかについて世界のなぞなぞを参考に考察した。本論の最初にあげた「反義語は主に矛盾を表すことに用いられているのだろうか」という疑問に対しては、「矛盾」だけでなく、「比喩」を表現するためにも反義語が多く利用されているということが明らかにされた。また、第二の疑問である反義語ペアはどのような型で表現されているかについては、2セットの反義語を含むなぞなぞに限ると、反義語の対が交互に表われる [A-B-A'-B'] 型が多く観察された。

本論の結論を要約すると次の3点になる。第1に、なぞなぞに於いて、反義語は主に矛盾を表す役割として用いられるのではなく、矛盾と同様に比喩を表現するためにも使用される。第2に、1セットの反義語が含まれるなぞなぞには、別の語彙の対比が観察されることが多い。第3に、2セットの反義語が使用されるなぞなぞでは、[A-B-A'-B'] が典型的な型である。

## 注

- 1) Lyons (1977: 281) は、4つ目のタイプとして [up-down], [arrive-depart] 等の例を含む ‘directional opposition’ (方向性対比) があるが、必ずしも、(1) の3タイプとは区別できないと述べているので、ここでは、分類には含めていない。
- 2) 形情性は概念的には同じものが、言語間では習慣的に異なって使用されることがある。例えば、日本語と英語では、次のような用法の違いがみられる (森岡, 2008: 50)。

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| (i) a low hill <u>低い山</u>      | a high mountain <u>高い山</u>   |
| low tide <u>干潮</u>             | high tide <u>満潮</u>          |
| (ii) a small room <u>小さな部屋</u> | a large room <u>大きな部屋</u>    |
| a small audience <u>少ない聴衆</u>  | a large audience <u>多い聴衆</u> |

- 3) (5)以外の機能と例は、以下の6つである。

(i) Comparative Antonymy 「比較反義語」

例：Those who *succeed* more than they *fail* are all different.

(ii) Distinguished Antonymy 「分類反義語」

例：The gap between *rich* and *poor* has widened.

(iii) Transitional Antonymy 「移行反義語」

例：It was trying to make the transition from *old* to *new* technology.

(iv) Negated Antonymy 「否定反義語」

例：If you look at *employment*, not *unemployment*, that too fell in the first quarter of the year.

(v) Extreme Antonymy 「極度反義語」

例：...throughout the year except when the soil is too *wet* or too *dry*

(vi) Idiomatic Antonymy 「慣用的反義語」

例：Easy *come*, easy *go*

- 4) 杉本(2002)は、なぞなぞを解くことは、認知言語学的に重要であると考えられるわれわれの理解方式全体と深い関係があると主張している。
- 5) 『なぞなぞの本』(福音館書店編集部(編)1982)は、世界のなぞなぞが日本語訳されていて、原典は記載されていない。そこで、この論文では、日本語訳だけを検討している。
- 6) 厳密に言うと、可能の否定形の「運べない」は、「運ぶ」の反義語ではなく、「運ばない」が反義語である。
- 7) 正確には、「飲みこむ」の反義語は『活用自在反対語対照語辞典』、『反対語対照語辞典』、『反対語便覧』によると、「吐き出す」であるが、ここでは「出す」が省略されたと考え、反義語とみなすことにする。

## 参考文献

- 池上嘉彦 1992. 『ことばの詩学』(同時代ライブラリー 132) 岩波書店, 東京.
- 国広哲弥 2002. 「類義語・対義語の構造」 飛田良文・佐藤武義(編)『現代日本語講座第4巻 語彙』152-171, 明治書院, 東京.
- 杉本孝司 2002. 「なぞなぞの舞台裏」 大堀壽夫(編)『認知言語学 II: カテゴリー化』59-78, 東京大学出版会, 東京.
- 玉村文郎(編)1992. 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社, 京都.

- 東京福音館書店編集部（編）1982. 『なぞなぞの本』 福音館日曜日文庫，東京.
- 村木新次郎 2002. 「意味の体系」 北原保雄（監修），齋藤倫明（編）『朝倉日本語講座4：語彙・意味』54-78，朝倉書店，東京.
- 村木新次郎 2008. 「対義語の輪郭と条件」 宮地裕・甲斐睦朗（編）『『日本語学』特集テーマ別ファイル 普及版 意味3』81-93，明治書院，東京.
- 森岡健二 2008. 「対義語とそのゆれ」 宮地裕・甲斐睦朗（編）『『日本語学』特集テーマ別ファイル 普及版 意味1』45-52，明治書院，東京.
- 森田良行 1996(2001<sup>2</sup>). 『意味分析の方法』 ひつじ書房，東京.
- Cruse, D. Alan. 1986. *Lexical Semantics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jones, Steven. 2002. *Antonymy; a corpus-based perspective*. Routledge: London and New York.
- Leech, Geoffrey N. 1981. *Semantics*, 2nd edn. Harmondsworth: Penguin.
- Lyons, John. 1968. *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lyons, John. 1977. *Semantics*, 2 vols. Cambridge: Cambridge University Press.

## 辞典

- 『活用自在反対語対照語辞典』 第4版 反対語対照語辞典編纂委員会（編）1998(2006<sup>4</sup>). 柏書房.
- 『反対語対照語辞典』 第6版 北原保雄・東郷吉男（編）1989(1998<sup>6</sup>). 東京堂出版.
- 『反対語便覧』 三省堂編修所（編）1996. 三省堂.